

会 議 録				
平成 18 年度第 10 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 19 年 3 月 26 日(月) 午後 2 時 00 分～4 時 20 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	福島議長、彦坂副議長、柿崎、兼森、堀井、藤川、田中、武田各委員 (欠席) 井土委員、君塚委員		
	その他	石川教育部次長、伊藤生涯学習課長補佐、中嶋公民館長、古屋図書館長、 林体育課長、		
	事務局	木村生涯学習係主事、宇佐見非常勤嘱託職員		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 平成 18 年度都市社連協第 2 回理事会について				
(2) 第 3 回小委員会について				
(3) 平成 19 年第 1 回定例会について				
(4) 上水公園運動施設及びテニスコート場の使用申請書の廃止について				
(5) その他				
2. 協議事項				
(1) 三者懇談会について				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 平成 18 年度都市社連協第 2 回理事会について				
(福島議長)				
〔狛江で開催された理事会の報告〕				
第 1 号議案:定款の一部変更について。				
第 2 号議案:平成 18 年度補正予算について				
第 3 号議案:平成 20 年の第 2 回総会について				
〔協議事項〕				
平成 19 年度定期総会(4 月 11 日)の統一テーマ「地域を生き生きとする社会教育～すべての人が輝けるまちづくりのために」				
〔議事〕				

平成 18 年度決算事業報告

平成 19 年度社会教育委員研修会の講演:テーマ「学校家庭地域の実践～みんな笑顔の土曜学」

(2) 第 3 回小委員会について

(福島議長)

説明は協議事項で行う。

(3) 平成 19 年第 1 回定例会について

(石川教育部次長)

[社会教育関連の質疑と応答]

・子どもマラソンの提案について :すでに元旦のロードレース、野川の駅伝大会など小中学生を対象に開催しており、改めて事業を起こすのではなく、それらを発展させていきたい。

[教育委員会全体の質疑と応答]

・いじめ根絶のための新たな取り組みについて :平成 19 年度からスクールカウンセラーの拡充、相談会を週 2 回に増やすなど教育相談機能の充実を図っていきたい。

[一般質問]

・青少年のスポーツ振興について :スポーツも基本的に少年の体力向上に重要である。施設面では野球、サッカーなどでは市営グラウンドが一つで厳しい状況にあり、都公営グラウンドや学校校庭を利用している。更に都施設などに働きかけ施設の確保に努めたい。

・市制 50 周年記念事業について :小金井市文化財センターでの企画展「写真で見る小金井の昭和」の写真を冊子、CDにする提案について :冊子は経費の問題があるが、CD化については検討したい。

・子どもの居場所について :平成 19 年度から放課後子どもプランを実施するが、具体的には運営委員会の中で、学校施設を借用した常設的な活動などを検討したい。

(武田委員)

・子どものいじめや自殺の社会問題があるが、スポーツ振興について、時代に逆行するのではなく、礼に始まり礼に終わり、心身ともに鍛える武道の推進を勧めたい。

・運動施設不足に関し、栗山公園ではトラブルがないようサッカーの練習をしているが、他地域でも参考にされたらどうか。

(兼森委員)

平成 19 年度の社会教育予算や教育方針を教えてください。

(石川教育部次長)

教育方針については事前に送付し、予算については次の会議にてお知らせしたい。

(4) 上水公園運動施設及びテニスコート場の使用申請書の廃止について

(林体育課長)

両施設とも平成 18 年度より公共施設予約システム導入で、従来からの使用申請・承認の簡略化を検討してきた。両施設のパソコン導入で、直接申請内容を確認でき、使用申請書・承認書を廃止とした。なお、総合体育館と栗山公園健康運動センターの貸切り使用については事前に使用料を支払う関係から、領収書を兼ねている使用申請書を提出して頂くが、簡略化は今後も検討したい。

(田中委員)

利用者はシステムで予約した後、使用料の支払いに行く必要があるが、コンピュータ化を更に進め ATM 振込みなどで済ませるよう簡略化できないか。

(林体育課長)

体育館など団体利用はキャンセル料の関係で事前の支払いが必要だが、システム上収納の確認が一番難しい。当然検討すべき課題だとは思ふ。

(伊藤生涯学習課長補佐)

総合体育館では支払の関係での変化はないが、予約システムの導入により抽選にもれて無駄足とはならず、利用できる人だけに来て頂くことで利便性が向上している。また、他の施設を含めた公共施設予約システム全体では利便性が向上していると認識している。

(5) その他

ア. 放課後子どもプランについて

(堀井委員)

放課後子どもプランの運営委員会、コーディネータ等々の進捗状況を伺いたい

(石川教育部次長)

3月20日を期限に運営委員の推薦依頼を受付け、従来の地域子ども教室実行委員会の方々にも引き継いで頂き、20名程度の運営委員会として集約すべく準備をしている。行政も8課が参加の予定。コーディネータは予算上2名となるが、地域子ども教室のコーディネータ5名から選任したい。

4月中旬をめどに第1回運営委員会を開催し、年6回の会議を予定している。地域子ども教室の実績を踏まえながらも、基本的には運営委員会で本格的に議論し決めて頂きたい。行政としては、安全な場所としての小学校施設の利用を考えており、平日の放課後に教室を確保し、少しずつ拡大をしていくことを目指し、具体的な学校はこれから各学校と話し合いをし、できるところから進めていきたい。実際の開始は、4月は先生方が多忙なこと、新規立ち上げには時間を要することなどから6月頃となる。地域子ども

教室として動いているものは4月以降も実施される。これらも運営委員会の中で提案や議論をして頂きたい。

(彦坂副議長)

武田委員が社会教育委員の代表として運営委員会に参加するが、この会議での意見を吸収して出すか、あるいはこの会議に報告するのか。

(石川教育部次長)

社会教育事業に熟知している委員の会議であり、その都度の課題等について討議されている中での委員の方ですので、運営委員会での発言は社会教育委員としての発言になろうと理解している。

(福島議長)

武田委員を通して運営委員会に出すことがあれば出し、運営委員会での内容を伝えることがあれば報告して頂くことになると思う。

## 2. 協議事項

### (1) 三者懇談会について

(福島議長)

3月29日(木)午後3時半から開催される三者懇談会に、社会教育委員として提示する事項があるか。

(彦坂副議長)

小金井市制50周年記念事業へ、社会教育委員として教育委員会などへ何らかの企画を出せるか。市として周年事業を企画する部門があるか。

(石川教育部次長)

周年事業は市全体の問題であり、企画課が窓口になり進める。生涯学習課は市史編さん事業の一環として、小金井桜を集大成したものを刊行したいと考えている。

### (2) その他

第3回小委員会について

(福島議長)

第3回小委員会では、各委員の考えを出していただいた。学校との連携をいかにしたら良いかが課題として残っている。

(藤川委員)

小委員会では各委員の考えを提示した段階で、コンセンサスはなんら得られていない。学校を支援することについて学校はどのように考えているか伺いたい。

(堀井委員)

小委員会で課題となったのは、どのように実効性のある形にするかだ。形を作っても実態が動かないものであっては意味がない。その点も踏まえて伺いたい。

(柿崎委員)

考え方として、それぞれの学校、団体、個人が単体で一生懸命活動しているが、重複や協力したいのにその場がないなどの状況があり、大きなコーディネータとしての地域教育会議を考えると理解してよいか。

その辺も含めて社会教育委員の会で検討するのか、そうでないか。

(福島議長)

地域教育会議構想の後に放課後子どもプランが出てきた。似たものを二つ設けるか、地域ごとか、もう少し熱意を持って動くかという形です。

(藤川委員)

平成15年5月31日に「学校5日制に伴う地域教育力の活性化について」の提言を出した。その最後に「行政の支援による地域教育会議の設置」を提案している。提案は良いが具体的にはどうするのかを皆で考えている。

(兼森委員)

・「地域教育会議の設置」を研究テーマとして小委員会を設けて集中的に研究している。その中で、まだ学校の中身が分からないため、どのようにすれば実現するのかという点で悩んでいる。そのヒントを先生から頂ければありがたい。

・行政は生涯学習推進計画の中に地域教育会議を支援するとしている。具体的な施策として進んでいるわけでないため、社会教育委員としては更に練り直している段階で、生涯学習課としては一緒に検討しつつ、待っている状況にある。

(柿崎委員)

・市内には様々な組織、個人が独自の活動をしている。地域教育会議の性格づけとして、趣旨も性格も異なる様々な活動を一元化するのではなく、ある程度状況を把握しコーディネートする組織であればありがたい。

・そうであれば、年次計画で行なって頂き、いつか地域教育会議にコーディネートしてもらい、力を貸してもらい申し入れなどが学校側からあろう。そのシステムには保育園、幼稚園から小中高の学校が参加できればよい。

・すでに学校は学童保育、児童館、子ども家庭支援センターなどと個別には全部連携している。

地域の学習支援ボランティアの人材バンクを作ったが、活用に至らなかった。教育委員会でも学校を支援するコーディネートをしているが、活用しきれない状況がある。理由に、個人情報の問題がある。また学校、学年毎に教育計画、指導計画が時期、内容少しずつ異なる。指導者も違う。そこに時宜を得て一致させるのが難しい。どうすれば支援の需給を一致させ、活用できるのか難しい課題だ。

小金井市の教員は地域の人が支援を申し出て迷惑だと思う教員はいない。学校内でがんばっており、手助けが欲しいと思うことがある。学校が手助けを必要とする時、学校の状況や意向を正確につかみ、反応が早く、個人情報の問題でも安心して頼めるところは教育委員会の指導室だ。

その結果、せっかく作った人材バンクが埋もれてしまう現実がある。

・地域教育会議が小金井市として、そのような学校の状況を丸抱えできる組織になってもらえるのかどうか。そこが一番のネックだと思う。

(田中委員)

・教育委員会、学校は秩序がある所であり、じゃまにならず、サポートする会議でないと意味がない。学校側のリクエストと地域の力がうまく調整できればよい。地域教育会議がコーディネートする機能を持ちながらも限界がある。学校側のリクエストがない、直接することはいやだなどの問題で、地域教育会議は学校と地域の支援が、直接的でなくワンクッションおける利点がある。

・小金井市全体を網羅することもできるが、小学校区など小さな範囲で実動しながら、市全体に広がればいいと思う。あまり片意地張らない会議、仕組みのほうがお互いによくいくのではないか。逆に地域教育会議の方から提案や、リクエストをするなど双方向でありたい。ただし、あまり学校の中まで入り込まない方がよい。

・ただ、学校側のリクエストが全く分からないため、皆勝手にしている状況だ。最初はそのようなことの話合いの場であれば良いのではないか。

(柿崎委員)

・そのように考えると、学校教育は教育委員会の組織では学校教育部で、社会教育委員の会議は生涯学習部だ。分かれていることはそれで意味があると思うが、社会教育が学校教育部の中核である学校教育に入り込んで支援したい、との意味で受け止めている。とすれば学校教育部が介在しないと、どこかでうまくいかなく可能性がある。学校教育部が管理しているからでなく、地域と連携をとりながらも、学校は何かあった場合に、教育委員会の意向も聞くが、一番リクエストを出し、校長から教職員、子どもの個人情報も含め全部フィルターにかけてもらえる安心して相談できる存在だ。教育委員会と学校は別物でなく密接な関係だ。学校の意向を聞くだけでできるわけでない。地域教育会議は全てを総合する形で進めないと破綻が来る気がする。これはかなり大きなことだ。

・しかし、私の地域教育会議の性格付けからすると大変意義のあるものだ。将来、学校の子どもを健全に育てるために助けてもらえる小金井市になるだろうとの思いがある。したがって、交流をどのようにして進め、一つにすればよいかを考えてもらえればありがたい。

(兼森委員)

学校現場は忙しい。地域の団体との連携を良くするには、学校との関わりの長い人が地域教育の視点で、情報や人を把握した上で、校長の下にできることを探っていくこと

が必要だ。学校の実態や子どもの生の様子を知らなければ行き違いになる。間に立つ人がキーパソンになろう。

(柿崎委員)

足しげく学校に来てもらうだけで雑談が生まれその中から望んでいることが見えてくることもある。また、雑談が生まれなくても教員の困っていること、喜びにしていることを肌で感じてもらえるだろう。「肌で感じる学校への理解」から始める支援を柱に据えて頂ければ、校長、教員、子どもたち、保護者たちも安心できると思う。

連絡の上で来て頂ければ校長以下、誰でも対応し会話も生まれよう。

(福島議長)

いかに私たちが学校現場を知らないかを柿崎委員の話から伺えた。それを理解した上で、各委員の考えをまとめていきたい。

(彦坂副議長)

ほたる村としては稲苗を10年来、配布している。南小学校では田圃まで作り、環境学習として教科に取り入れるなど、友好的に進んでいる。実例として報告。

以上